

# あじさい

石川県ことばを育む親の会

第50号

2008年10月26日発行

発行責任者 大森克成

〒921-8845

石川県野々市町太平寺2-9

TEL/FAX (076) 248-6303

E-mail/aihuru@po4.nsk.ne.jp



「おっきな口やなあ！」

また、講演に先立ち、石川医療技術サービスクラス補聴器相談センターの石川裕二さんから、最近のデジタル補聴器の機能について

八月十六日(土)から十七日(日)に掛けて、白峰恐竜パークで「体験学習」、白峰御前荘で「講演会」の親子合宿を開催し、六〇名の参加で楽しく行なっていました。  
一日目は、白峰恐竜パーク「白峰恐竜館」で展示された化石の鑑賞、石膏による恐竜のレプリカ作り、恐竜の折り紙、恐

竜の卵すくい、それにのみと金槌での発掘体験などに挑戦しました。  
二日目は、独立行政法人国立特殊教育総合研究所 主任研究員 牧野泰美先生に「聴覚に障害のある子どもの育ちを支えるために」と題して、海外の話なども交え、「ことば」を獲得するプロセスなどについて講演をして頂きました。

## 「白峰恐竜館・白峰御前荘」で 親子合宿したよ！

のお話をして頂きました。

今回の合宿は「石川県難聴児を持つ親の会」主催としての合宿で、特に「日頃、こども達との触れ合いが少ない父親の参加を！」ということで、山岸和美、河辺由美子合宿企画担当者が敢えてお盆の時期に行いました。

そのお陰もあって、ほとんどの家族が父親も一緒に参加してくれました。



「また来年も会おうね！」

**NPO法人全国ことばを育む会**

**総会・記念講演会**

六月七日(土) 八日(日) 東京山サンライズでNPO法人全国ことばを育む会の総会が行なわれました。



「全国ことばを育む親の会」最後のブロック長会議

今年度「全国ことばを育む親の会」が「NPO法人全国ことばを育む会」に一本化され、総会で定款の改定や組織機構が提案され承認されました。

本会の大森会長は北陸ブロ

ック担当理事となりました。

平成二十一年八月八日(土)

九日(日)には東京國學院大學渋谷キャンパスで全国大会が予定されています。

**県特研通級指導部会総会で**

**お礼の挨拶**

七月十五日(火) 石川県特別支援教育研究協議会・通級指導部会の総会が教育プラザ富樫で開かれ、本会の大森会長がこれまでの教育相談会の協力に対するお礼と、今後とも協力をお願いをしました。

毎年能登、金沢、小松地区での教育相談会では通級指導部会の先生方の協力で開催でき、多くの親の悩みや不安を聞いて適切な指導・アドバイスをいただいています。

**金沢地区教育相談会**

**各親の会が協力**

六月二十九日(日)、金沢市教育プラザ富樫で今年度第一

回目の教育相談会を開催しました。例年の通り特別支援教育コーディネーターの先生はじめことばの教室の先生方や言語聴覚士、ろう学校の先生方などに相談に乗っていただきました。



反省会で。「来年度はもっと親の出番を！」

今回の相談会では先生方との相談のあとに、さまざまな親の会の保護者と話をしてもらおうということが大きき柱として取り組みました。パルの会、アスベの会、エルデの会、言友会、難聴児を持つ親の会などの

会員がスタッフとして参加してくれ、相談に来た不安な親の話に熱心に耳を傾け、体験を話したり家庭での様子などについて話をしていました。

**北陸教育**

**オーディオロジー研究会**

八月四日(月)～五日(火)

第四回北陸教育オーディオロジー研究会が福井県アオッサで開かれ、北陸四県(新潟、富山、石川、福井)から約一〇〇名のろう学校、難聴学級の先生方が集まり、ろう教育についての研究会が開かれました。石川ろう学校からは「乳幼児教育相談」と題して岩原先生が講義をされました。また京都府立ろう学校の脇中起余子先生が「ろう教育の展望：九歳の壁と障害認識を念頭に起きながら」と題して講演されました。また、オチコン、リオン、シーメンス、ホナックなどの業者から、最新の補聴器の性能や特徴などの説明がありました。

## 補聴器の供給システムについて思う事

石川医療技術サービス 石川裕二

補聴器に関する仕事に携わるようになって三〇年間、補聴器は大変な進歩をとげましたし、フィッティング・調整についても研究されどんどん進歩しています。しかし、補聴器の供給や療育、福祉法の補助制度などは、各県、地方自治体により対応の違いはありますが、補聴器の進歩ほどには進んでいないように思います。今回は補聴器の供給システムの現状や問題点、望まれる供給システムなどについて述べてみたいと思います。

まず、聴覚障害の発見される時期は、以前に比べ格段に早くなっています。以前は三歳児健診で発見されたり、話し始めるのが遅いのではと、専門医を受診の結果一から二歳位で難聴が発見される例が多かったように思います。最近では新生児の聴覚スクリーニングが産婦人科で出産直後に行われ、〇歳児

の難聴発見が増えてきています。この事は補聴器の選択に関して、難しさを増す原因になっています。

三〇年前には、難聴が発見された時に使い始めるのは、ポケット型補聴器で聴力の程度により高度難聴用、標準型のどちらが良いか判断するだけでした。その後耳かけ型補聴器の高度難聴用が製品化され、オーダーメイドの耳あな型補聴器が発売されたのはもう二〇年程前になります。デジタル補聴器も最初に発売されてからもう一〇年位になります。高度難聴に適應する機種や小型化も進んでいます。また、新生児乳児用の補聴器としては、ベビーエイドという日本独自のシステムも利用されています。また、FM補聴器やFMシステムなども進歩していますが、機種により対応しない場合もあります。

補聴器選択の問題点 難点は

これだけ選択肢が増えたこともありですが、この他に福祉法（障害者自立支援法）による補聴器購入に関する補助制度や自己負担金などの費用の関係

もありません。

ここで現在販売されている補聴器や補聴援助システムでQOLや装用効果を考え年齢別に最良と思われる例を考えたいです。

〇一歳：ノンリニアのデジタル補聴器をベビーエイドに改造して使用。（改造に対応しているのはリオンのみで製品の形状は大型）

理由：ポケット型補聴器にはノンリニア補聴器がなく、形状もベビーエイドの方が装用に対する負担が少ない。

二一歳：小型のノンリニアデジタル補聴器、ろう学校以外の場合FM対応

理由：小型の方が耳から外れるなどの装用の障害が少ない。

一三歳以上：デジタルオーダーメイド耳あな型、状況によりFMと使い分け

ここに挙げたように、補聴器を購入しようとした場合の両耳購入時の差額負担は二、三級の身体障害者手帳を所有している場合で、初回が一〇万円程度、二歳時点が一〇万円以上、

FMの申請も行う場合は二、三万円、耳あな型購入の場合で四万円以上といった金額となります。

しかし、保護者が低年齢時に高額な負担となっても構わないと高性能な補聴器を購入したとしても、聴力確定の難しさから費用対効果の適切な補聴器の選択が出来ない場合があります。現在の補聴器供給システムの中では費用負担の問題が大きいかもしれませんが、聴力検査など医学的な面やフィッティング技法などの進歩ももつと必要かと思っています。

ここまで補聴器の進歩による、選択肢が増えた事による費用負担の増加を問題とのべましたが、身体障害者の等級にあてはまらない七〇デシベル以下の軽・中等度の難聴児に対する公的補助がない事ももう一つの問題として考える必要性を感じます。公的な補助無しでFMシステムを両耳で購入する時には三〇万円以上の負担が必要です。装用効果の一番期待できる軽・中等度難聴児に対する公的補助については一考が必要だと思います。

教室だよー

通級指導教室

「ことばの教室」

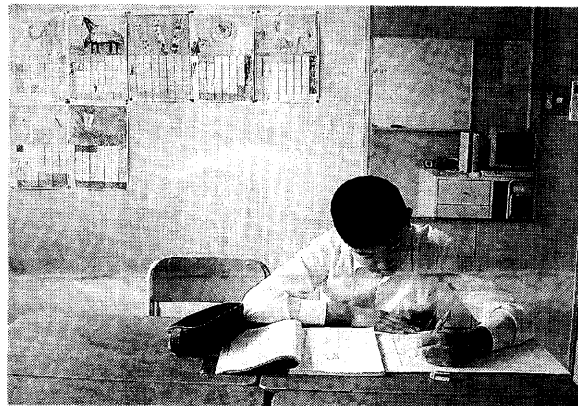
金沢市立長田中学校 柿本佐和子  
 長田中学校の「ことばの教室」は平成一三年に設置されました。二つの学習室と保護者との面談用の応接セットを置いたスペースおよび担当者の事務スペースがある立派な部屋です。泉中学校に LD・ADHD の通級指導教室ができるまでは金沢市内の中学校で唯一の通級指導教室でした。

小学校の「ことばの教室」に通っていた人たちが継続して通うというのがほとんどです。そのため子どもも保護者も「ことばの教室」へ通うことに慣れていて学校生活の一部になっているようです。授業時間に在籍校の授業に替えて「ことばの教室」で学習する子と放課後、在籍校での授業を終えてさらに「ことばの教室」で学習する子がいます。離れた学校から通

つてくる子は保護者の送迎も含め、大変なことと思いますが、みんなほとんど休まずに通って来ます。それだけ「ことばの教室」は大きな役割を果たしているということだと思っています。

中学校における「ことばの教室」では、構音障害のために通う生徒は少なく、友達とのコミュニケーションがうまくいかない、言葉の理解力が不足しているために学習面での遅れがあり、自信をもてないという生徒がほとんどです。このような場合も二、三人でいいので話せる友達がいると心配いりません。在籍校の方でも学級編制や班編成の際、配慮してくれていることと思います。気の合う子がいるととても心強いし、学校生活も楽しくなります。通級生たちと話しているとやはり部活動の友達が一番安心できる存在のようです。趣味が同じ人とは自然と気が合うものですよ。そこでできた人間関係を基に教室でも周囲に支えられるようです。自分に合う部活動に入り、気の合う友達と仲良く

するとするのが中学校生活を楽しく送る一番の秘訣です。



「ことばの教室」では、まず、『話す』ことから始めていきます。聞くところからもうれしくなります。少しの糸口からどんどん話を広げていくことができます。話している方も聞いている方も楽しいというのが一番です。在籍校の学級の中では、なかなか自分を出し切れない子どもたちであろうと思いが、週に一度、学校での自分の頑張りを報告してくれる、その時間をこれからもずっと大切に

にしていきたいと思っっています。今年度、初めて通級指導教室を担当しました。中学校の通常学級の担任と養護学校高等部の担任の両方の経験があることを生かして、「ことばの教室」という枠にとらわれず、自分にしかできない通級指導をやっていこうと思っています。

能登地区教育相談会

◎とき 11月23日(日) 10:00~16:00

◎ところ 能登ふれあい文化センター(穴水町)

小松加賀地区教育相談会

◎とき 2009年1月25日(日) 10:00~16:00

◎ところ 小松市第一コミュニティセンター

能登地区、小松加賀地区で難聴・吃音・構音障害・ことばの遅れ・LD・ADHD・高機能自閉症などことばに悩みや不安を持つ子どものための教育相談を、きこえとことばの教室、特別支援教室の先生や言語聴覚士の先生方の協力を得て行ないます。相談は無料です。